

# 令和4年度学校評価報告書

令和5年3月22日

## 1 本年度の重点目標

- 1 自ら学ぶ意欲と態度を養い、基礎的・基本的な事項を確実に習得させ、自己実現を図るにふさわしい確かな学力を育成する。
- 2 自己肯定感の涵養、生命尊重の精神、多様な他者を思いやる優しく豊かな心を涵養する。
- 3 健やかな心身を育み、主体的に地域社会とグローバル社会に貢献する態度を育成する。

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
<b>学習指導</b> ○主体的な学ぶ意欲の定着 ○確かな学力の定着 ○探究的な学習活動「未来計画」の推進 ○家庭学習の定着	個に応じた指導や支援だけでなく、基礎基本の定着、学習の充実に向けた働きかけができた。生徒が主体的に学ぶことができるような仕掛けを行う必要がある。	授業を参観した時に、コミュニケーション力の向上を実感した。授業や未来計画での縦割りも含めた協働的な学びの成果だと思われることから、十分達成している。
<b>改善方策</b>	個に応じた取り組みに向けて、ICTを活用した実践により自らが取り組むことのできる動機づけを行い、自学への定着を図ることで学ぶ意欲や楽しさを理解させる。	
<b>生徒指導</b> ○自己肯定感の育成 ○教育相談とサポート体制の充実 ○いじめや不登校等の早期発見と早期対応 ○特別活動の充実	自己肯定感の育成に向け、外部ツールを活用し自主性、自律性を伸ばす活動や支援を行った他、生徒支援に向けた情報共有やいじめ対策として面談週間によるきめ細やかな生徒観察を十分に行った。 いじめの認知についてより理解を深める必要がある。	SNSでのトラブルにからいじめにつながるケースがあるが、加害者がいじめと認識していないことが問題。個々の事案へのきめ細かい対応がなされており、いじめ総探やスマホ安全教室を今後も継続しながらさらなる意識の高揚を図ってほしいことから、十分達成している。
<b>改善方策</b>	教職員の協働体制を整え、自主性や自律性を伸ばす指導、支援を継続する。いじめ対策に向けた対策の構築と充実を図る。	
<b>進路指導</b> ○系統的なキャリア教育における実践力の向上 ○意欲的に進路実現を目指す生徒の育成 ○保護者、関係機関等との緊密な連携	保護者説明会などによる情報提供や、進路実現のためのサポートについても十分に行うことができた。 今後は生徒の自主性をより促す必要がある。	国公立大学に4名、航空自衛隊（パイロット養成）に合格者が出たことは誇らしく、高校の部活動を含めた教育活動の成果であると思われることから十分達成している。
<b>改善方策</b>	進路活動へのより効果的なプログラムの構成と積極的にアプローチすることで自主性を促す。	
<b>健康・安全指導</b> ○体力の向上と心身の健康の保持 ○健康管理の意識の高揚 ○安全教育の充実	担任や養護教諭と家庭との連携を密に行った。性の総探を含めて様々な講演会を実施することにより、心身の健康保持に繋げることができた。	支援を必要とする生徒が多くなっている中で、個々の生徒へのきめ細やかな対応ができています。けがによる保健室来校者数が多いが、体力の低下が影響しているのか気になることから達成している。
<b>改善方策</b>	さらに防犯意識をより深められるような内容を取り入れ継続的な指導、啓蒙活動等を行う。教育相談の充実を図る。	

評 価 項 目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
<b>信頼される学校づくり</b> ○さらなる情報発信 ○外部評価の積極的活用 ○ボランティア活動及び学習サポート事業等の実施 ○保護者や地域との協働による学校魅力化の推進 ○法令遵守と服務規律保持、説明責任の意識の徹底 ○私費会計の適切な会計処理の推進	教職員としての自覚を持ち、適切な対応に努めた。 地域との協働による活動や連携は、積極的に行うことができた。また、その発信については、学校ホームページやインスタグラムなどを通して学校行事や授業の様子を発信できた。	町の方々から高校を残したいという声を聞く機会が多くなり、関心が高まっている。未来計画や地域学、ボランティア活動など、地域の大人との関わる機会が増え、高校生が外に出ることで、町民も目に触れる機会が多いことから。さらに地域との協働を活発化させ、話題になったポスターなどのPR活動を通して、魅力を高めて多くの町民から愛される高校になってほしいことから、十分なされている。
<b>改善方策</b>	保護者を含め地域住民の方々にも、高校の取組を理解してもらえるよう積極的な発信や取組を行う。引き続き、服務規律の保持のための研修会等の充実を図る。	
<b>組織運営</b> ○関連組織との緊密な接続 ○学校経営方針等の理解及び各分掌等の連携、情報の共有	各分掌の業務を見直し、現状にあわせた取組を行う必要がある。また、分掌間の共有を深める。	間口減に伴い教職員数も減少していることから、さらなる情報共有が必要と思われることから、達成している。
<b>改善方策</b>	業務の見直しについては発信から検討まで計画的に行うことで教員間の連携を図る。また、分掌内の業務に固執することなく、学校全体を見据えた業務を遂行し、改善・修正を行う。	
<b>教職員の資質向上</b> ○教科指導力等と資質の向上	外部への研修等を積極的に行い、情報共有を図ることで現在の課題についての相互意識を深めることができた。様々な取組による業務の偏りや負担感への対応が必要である。	先生方が町の祭りやイベントなどに積極的に参加し、多くの町民と接する中で情報交換ができ、教員としての資質も含めた人間力の向上につながることもあることから達成している。
<b>改善方策</b>	時間外勤務の縮減により心身の健康を保つ。 生徒支援に向けた学習計画を整え、地域の協力やICTを活用した研修や視察を行うことで、より充実した学習活動と授業改善を図る。	
<b>公表方法</b>	1 ホームページでの公開 2 保護者への資料の配付	